



砂防ボランティア通信

特定非営利活動法人大阪府砂防ボランティア協会

理事長あいさつ

25年度通常総会を開催

この1年の活動概要報告

危険斜面等の点検調査

地域調整委員会活動

研修会・講習会

河川室だより（大阪府）

☆ 理事長あいさつ

大江 徹

理事長に就任しまして一年が経過しました。振り返ってみますと昨年度は、砂防の施設点検や現地調査、住民によるハザードマップ作りのお手伝いなど砂防ボランティアとしての活動は会員の皆様の協力により、一層の充実をはかれたと思います。一方、当協会の運営において収益事業として大きな柱であり過年度実施してまいりました危険斜面の調査を実施できなかったことは、会員の皆様も活動の物足りなさを実感しておられるのではないのでしょうか。

社会の防災への関心が高まる中、土砂災害は府民に身近な災害として関心が高まっています。砂防ボランティアとして、住民に対して土砂災害に関する知識の啓発、被害軽減のための防災意識の啓発などの活動が一層期待されているところであります。こうした社会的要請を受けて今年度も調査、啓発、研修などの活動をすすめてまいります。

そのためには、協会の体制の充実、会員の活動しやすい環境、また、大阪府、市町村との連携による活動の内容の充実、さらには万一の大災害が発生した場合の他府県との連携をも検討してまいることが必要と考えております。会員の皆様には活動のみならず、若い新規会員の獲得にもご協力をお願いいたしますとともに、関係各位の一層のご協力、ご支援をお願いするものであります。

☆ 平成25年度通常総会を開催

5月17日（金）、大阪府立労働センター「エル・おおさか」で通常総会を開催し、平成24年度事業報告・決算報告を承認、平成25年度事業計画・予算を審議し決定しました。

また、総会終了後には平成25年度第1回の会員研修会を開催しました。



薫田大阪府河川環境課長のご挨拶



通常総会の審議状況

執行体制

理事長	大江 徹
副理事長	藤本光大 井上 整
理 事	吉村 滋（総務） 若菜邦雄（広報） 東郷 茂（財務） 中田 智（企画） 上畑憲光（受託事業） 下清水則男（地域調整）
監 事	川崎茂晴 平井俊郎
ブロック長	（池田）上畑憲光 （茨木）東郷 茂 （枚方）下清水則男
	（八尾）川口恵司 （富田林）八木誠一 （鳳）田中拓夫 （岸和田）阿部捷歳

☆ この1年の活動概要報告

危険斜面地等の点検調査・防災啓発活動

土砂災害から府民の命を守るため、大阪府や市町村と連携して土砂災害防止のための点検調査や防災意識の向上・啓発に努めました。

活動内容は、土砂災害危険箇所の「パトロール」・「緊急点検」等（14回27名）、住民と一緒にやっての「地区単位のハザードマップの作成」に参加協力（14地区、31名）するとともに、地すべりの動態観測地である八尾市黒谷「市民の森」の除草活動に参加（2回、6名）しました。

会員の活動は30回、延べ参加人員64名となり、会員の積極的なボランティア活動は府民からも好意的に受け止められており、これからの地域防災力の向上にさらに寄与するよう努めていきたいと思いをします。



土砂災害危険箇所のパトロール
（富田林土木管内）



ハザードマップ作成
（千早赤坂村千早地区）



清掃活動（八尾市黒谷地区市民の森）

研修会・講習会

1. 砂防施設現地研修会

平成24年11月22日（木）に、平成23年の台風12号による豪雨により大規模な斜面崩壊・土石流災害や河道閉塞（天然ダム）が発生し、緊急対策工事が進捗する奈良県十津川流域五條市大塔町の被災地3か所を視察しました。バスを借上げての研修会には会員30名、大阪府9名、近畿地方整備局・奈良県関係者3名、計42名が参加しました。

台風12号による総降水量は、紀伊半島を中心に広い範囲で1,000mmを超え、三重・奈良・和歌山3県において、崩壊地3,077箇所、崩壊面積約950万㎡、崩壊土砂量約1億㎡に達し、豪雨による土砂災害としては戦後最大規模とされています。

柳谷・辻堂地区では、熊野川左岸支溪で大規模な崩壊が発生し、崩土が土石流化して熊野川合流点まで達し、国道168号および人家が被災しました。

赤谷地区の河道閉塞は、高さ約600m（東京スカイツリー634mの高さに匹敵）、長さ約1,100m、幅約450m、深さ約30m、崩壊土砂量約900万㎡の大規模な深層崩壊によるものでした。現地では仮排水路が概成していました。



R168号BPの熊野川橋梁から被災地の説明を受ける



河道閉塞で出現した天然ダム（赤谷地区）

宇井・清水地区では、熊野川右岸清水の斜面が高さ約 240 m、長さ約 450m、幅約 200 m、深さ約 35m、土砂量約 53 万 m³の山腹崩壊が発生しました。清水地区の崩壊土砂と津波のように押し出された河川の水が河床から40mの高さにある対岸の宇井地区の人家まで押し寄せ、熊野川も一時的に河道閉塞しました。宇井地区では、11名が犠牲になられるとともに、人家約10棟が流出しました。現地は熊野川の堆積土砂撤去も進捗し、長大法面の掘削が遠隔操作による無人化施工で行われていました。



大規模な深層崩壊が発生した赤谷地区での参加者



宇井地区到着後、最初に犠牲者に対して献花と黙祷



斜面左上部の遠隔操作による無人化施工

今回の研修会では、これまで大阪府下では経験したことのない想像をはるかに越える大規模な土砂災害、河道閉塞の現状を目の当たりにし驚きの連続でした。「事前避難の重要性」「復旧の方針・整備水準」「地域の振興」など、多くの問題について改めて考えさせられました。

研修会は近畿地方整備局、奈良県、鹿島建設のご協力をいただき実施することができました。改めて関係各位に厚くお礼申し上げます。

2. 砂防講習会

(1) 平成25年2月12日「水害・土砂災害に関する防災講演会」を大阪府砂防協会・河川協会と共同で開催しました。(参加者115名)

「災害から身を守るための気象情報」 講師 気象キャスター 吉村真希氏

「大雨災害時の情報収集・伝達について」 講師 人と防災未来センター 主任研究員 宇田川真之氏

(2) 平成25年2月15日 土砂災害に関する講習会(近畿2府4県の砂防ボランティア協会共催)

当番府県とし事務局を担当し、「エル・おおさか」で講習会を開催しました。(参加者156名)

「平成23年台風12号豪雨災害復旧の紀伊山地砂防事業について」

講師 国土交通省近畿整備局河川部 地域河川調整官 岡山公雄氏

「土壌雨量指数について」 講師 気象庁大阪管区气象台技術部 土砂災害気象官 吉村 満氏

「砂防ボランティアの位置づけと大規模土砂災害に対する国の動向」

講師 砂防ボランティア全国連絡協議会 会長 森 俊勇氏

「危険個所の判定について」 講師 大阪府河川室 主査 井上洋之氏

- ・10月 砂防施設見学会・砂防ボランティア研修会
- ・1月 水害・土砂災害に関する防災講演会（大阪府砂防協会・河川協会と共同開催）
- ・2月 土砂災害に関する講習会（近畿ブロック）近畿2府4県砂防ボランティア協会共催（兵庫県）

秋には、一般財団法人砂防フロンティア整備推進機構から「土砂災害及び溪流・斜面、砂防設備、状況調査車両」１台が当協会に無償貸与されることになりました。（今年度は、全国で７台）

地域の防災力向上に資するよう、また地域の要望に応えられるよう早急に効果的で効率的な調査車両の運用方法を固めていきたいと考えております。

調査車両の概要：ワンボックスカー、定員６名、各種調査用資機材積載

大阪府砂防ボランティア協会